



# 祐介の目

大田ゆうすけ

(福山市議会議員)

No.69

毎月1日号に掲載

に適當であり、本業を圧迫するほどの負担が無く様々な事業を楽しむことだろう。ただ委員長などの役を引き受けると大変だ。新入会員も自発的な入会は少なく、様々な人脈を辿って依頼しても10人中1人が入会してくれる程度だ。しかし、入会された以上はメリットを感じていただけるような運営をしたい。

商工会議所青年部(YEG)  
平成21年、福山商工会議所創立80周年にあたり、若手経営者の斬新な視点、発想、行動力を会議所事業に活かすことを目的に、青年部が設立された。初代会長は横藤田晋さん(株)仲友・代表取締役社長)今年で創立8年目だ。

ロータリーやライオンズ、青年会議所(JC)など、様々な団体があるが、YEGは会費も安く例会と委員会がそれぞれ月に1回程度、50歳で卒業という「緩い」会だ。私も(株)福山健康舎の代表取締役として平成22年に入会して今年度で卒業する予定だった。ところが最後の年に研修委員会・委員長という大役を佐伯会長(有佐伯食品・代表取締役社長)から任命された。

委員長として最初の仕事は新入会員募集であり、8年前は80人程度で発足した当会も今では200人に迫る勢いだ。YEG人気の理由は人脈を作る

研修委員会では9月12日にトップマネジメントセミナーと題して(株)八天堂の森光社長の講演会を予定している。森光社長の講演は本当に胸に響くものがあり、事業における上り坂と下り坂と「まさか」をいかにして克服してきたか、多くの経営者に聞いていただきたい。YEG会員外の参加も大歓迎である。

また、研修委員会では自社の歴史と福山市の歴史との相関関係を調べている。例として(株)中島商店は明治42年に創業しているが、その理由は私が思うに、明治41年に歩兵第41連隊が福山に誘致され、福山のまちが飛躍的に発展した時期と一致する。軍と共に発展して一旦は焦土となり、戦後は日本鋼管(現JFE)とともに再興した福山の歴史と各事業所の歴史の相関は、今後の事業展開にも役立つはずだ。